

株式会社ヤクルト本社

事例紹介

今後 10 年先も有効活用できる変化に強いシステム基盤を確立 SVF 中心の帳票管理システムでコスト削減と業務の効率化を実現

Interview



写真左より
情報システム部 主事 小出 亮悟氏
情報システム部 部長 荒川 博之氏

Company Profile

株式会社ヤクルト本社

創業：1935年（昭和10年）

設立：1955年（昭和30年）

所在地：東京都港区

事業内容：生命科学の追究を基盤に、世界の人々の健康で楽しい生活作りに貢献することを企業理念に、乳製品・清涼飲料水などの食品事業をはじめ、化粧品事業、医薬品事業、分析・試験事業、研究開発、国際事業など、ライフサイエンス（生命科学）分野を事業展開。また、スポーツ・文化振興の一環として、プロ野球球団である東京ヤクルトスワローズを運営している。

URL：http://www.yakult.co.jp/



使い勝手も良く、将来性の高い仕組みを実現したい

SVF でペーパーレス化を可能にする帳票基盤を構築

今後 10 年先も有効活用できる 変化に即応する強いシステムの実現

株式会社ヤクルト本社は 1935 年の創業以来、腸内にすむ善玉菌のパワーを健康の維持・増進に役立てる「プロバイオティクス」という考え方に基づき商品化された乳酸菌飲料「ヤクルト」を中心とした乳製品・清涼飲料を製造・販売する食品事業をはじめ、医薬品事業、化粧品事業の 3 つの事業を展開している。同社は 2006 年 11 月現在、国内 137 の販売会社で、1 日あたり約 900 万本のヤクルト関連商品を販売。1964 年にはすでに海外進出を開始しており、現在では 27 の国と地域で 1 日あたり約 1700 万本のヤクルトを販売している。（全世界で国内と合わせて 2,600 万本／日を販売）

多角的かつグローバルに事業を展開するヤクルト本社にとって、IT システムの活用は不可欠だ。同社は、1980 年頃からメインフレームを活用した EDP 会計をはじめとする数多くの業務システムを構築してきた。しかし、20 年以上活用している COBOL を中心としたメインフレームは、システムの老朽化が進み、複雑にからんだシステムが外部環境の変化に合わせて迅速に対応できないこともあり、オープンシステムへの移行が求められてきた。

ヤクルト本社 情報システム部 部長 荒川 博之氏は、「2002 年に情報システム部に移った時から、今後のシステムがどうあるべきかを話し合ってきた。その結果、今後 10 年先も有効に活用できる、変化に即応できる強いシステムを実現することが必要と判断し、2003 年にシステムの再構築プロジェクトをスタートした」と語る。

システム再構築において荒川氏が重視したポイントが「出力基盤の統合化」及び「ペーパーレス化」だった。同氏は、「メインフレームからオープンシステムに再構築するにあたり、本格的にペーパーレス

化に取り組みたいと考えた。帳票出力は、すべての業務に共通する仕組みであり、これをひとつに統合することで、システム全体の管理性も向上し、ペーパーレス化も実現できる」と語る。荒川氏は、利用者を一番に考え利用者に最適な仕組みを検討、それを効果的に統合する仕組みを導入した。「本来であれば、ERP のようなすべての業務をひとつのパッケージで統合できる仕組みを導入したかったが、それでは利用者側に不便なシステムになってしまう。情報システム部が少し苦労するのは仕方がない。それよりは利用者が使いやすい仕組みを導入した方が満足度も高く、効果的だと思った」と話す。

同社は利用者の利便性を優先し「ベスト・オブ・ブリード」でシステムの再構築に取り組み、業務に共通する帳票出力の仕組みを共通化することで業務の利便性を高めることを目指した。

これまでの実績と機能の豊富さで SVF を中核とした仕組みを採用

ヤクルト本社が構築した帳票管理システムを提案したのは、帳票コンサルティングに強みを持つインフォコム株式会社と出力ノウハウに長けた富士ゼロックス株式会社だった。今回、いくつかの企業から提案があったが、最終的に両社が提案した帳票開発ツールの Super Visual Formade (SVF) を中心とする仕組みが採用された。

両社が提案した帳票管理システムは、インフォコムが提供するメインフレーム対応オープン系帳票仕分けシステムである OpenBOST をはじめ、ウイングアークの帳票開発運用ツールの SVF および RDE、電子帳票システムの NEOSS など構成されている。

新しい帳票管理システムでは、①ホスト／Open 兼用プリンターでの管理部門向けのセンター出力、

導入背景

- 「ベスト・オブ・ブリード」による基幹システムの再構築
- ペーパーレス化による将来性の高い帳票基盤の実現

導入ポイント

- 基幹システムにおける豊富な導入実績
- 柔軟で使いやすい帳票設計
- 4 パターンの帳票出力を実現

導入効果

- 印刷関連コストの削減
- 業務の効率化
- 将来に向けた安心感の確立
- 内部統制への対応が可能に

②電子帳票システムを経由しての事業所向けの分散出力、③オフィスプリンターでのオンデマンド出力、④ Web 出力の 4 パターンの帳票出力を実現。今後、開発されるすべてのシステムは、この帳票管理システムを基盤に構築されることになる。

ヤクルト本社 情報システム部 主事 小出 亮悟氏は、「既存のメインフレームでも将来のオープン化を見据えて富士ゼロックス製のプリンター [XEROX DocuPrint702DPS] に代替していた。その流れで、プリンター関連は富士ゼロックスに依頼した。また、既存の資産を有効に活用しながら帳票を出力する仕組みの構築はインフォコムに依頼。各業務システム構築ベンダーにもヒアリングし、構築実績などからウイングアーク製品を採用した」と語る。

実績のある製品を採用することで、開発工数や開発コストを削減できるほか、システム開発から運用管理までのリスクを低減できる。帳票管理システムには、会計、生産管理、人事・給与、販売管理、自動販売機管理などの基幹システムが統合されており、システムダウンすることが許されない。それが「実績」にこだわる最大の理由だった。

ヤクルト本社では 2004 年 4 月より、会計システムの開発に着手。2006 年 1 月に、会計、生産管理、人事・給与システムを同時に稼働させた。荒川氏は、「新システムでは、既存システムのサービスレベルを保証し、安全に稼働させることが重要、そのためにシステム開発に少し時間がかかった。しかし現在まで大きなトラブルもなく、3月の決算も順調に終了したことを考えると、時間をかけたことは良かった。結果的には、使い勝手も良く、将来性の高い仕組みが実現した」と話す。

SVF 中心の帳票管理システム実現でコスト削減はもちろん業務効率化も

SVF を中心とした帳票管理システムの効果は、さまざまな方面に表れている。たとえば、これまで紙の帳票で提供されていた各販売会社向けの請求明細が電子帳票として提供されることで、各販売会社の担当者は必要な帳票をいつでも参照し、データとしても分析することができる。

荒川氏は、「これまで 1 社あたり平均で約 200 枚の帳票を配布していた。137 の販売会社が約 3 万枚の帳票を配布していたことになるが、電子帳票として提供することでこれを削減できた」と語る。同氏はさらに、「電子帳票化により、印刷のための紙代や配送費、管理費などのコストが削減できるが、それ以上に業務効率の向上が期待できる」と

言う。「紙は少量であれば効率的だが、大量になると非常に検索効率が悪くなる。たとえば、大量の勘定元帳から必要な情報を見つけ出すには、多大な労力が必要だ。しかし、電子化されていれば、容易に検索できる」(荒川氏)

使いやすさの評価 内部統制対応の基盤としても期待

荒川氏は、帳票管理システムの実現により、「利用者から使いやすさの評価を得、将来に向けて安心感を確立できた。また、内部統制への対応に向けた基盤としても活用できるの思いがけない収穫だった」と話している。今後は、より一層のペーパーレス化に向けた仕組みの強化や、データ活用および利用レベルの拡大、システム管理の効率化などを目指していきたいという。

小出氏は、「システムは稼働することが目的ではない、稼働後いかにシステムを維持していくかが重要だ。システムのオープン化により、開発サイクルが加速したので、それに合わせた開発手法の確立が必要になる。コンピューターは、常に完璧を求めたいがそれは現実的ではない。そこでトラブルに対応するスピード感を上げていきたい」と話している。

最後に荒川氏は、「今回のシステム構築で完全にペーパーレス化を実現できたわけではないが、将来に向けた基盤が実現できた。ヤクルトには急激な変化を好まない文化があるが、今後も少しずつペーパーレス化を推進し、気がついたら画面だけを見て仕事をしていた、という文化に移行するのが理想的だ」と今後の抱負を語った。

導入製品

Super Visual Formade

膨大な帳票開発の効率化と多様な出力要件に応えるための、帳票開発支援ツール

Report DirectorEnterprise (RDE)

拠点に分散する印刷システムの集中化とホストプリンターに替わる大量帳票処理を可能にする、統合スプールサーバソフトウェア

Universal Connect/X

既存システムや企業間連携のための XML データ形式 / XML 対応システムからノンプログラミングで自動印刷が可能な、Pure Java 対応連携ソフトウェア

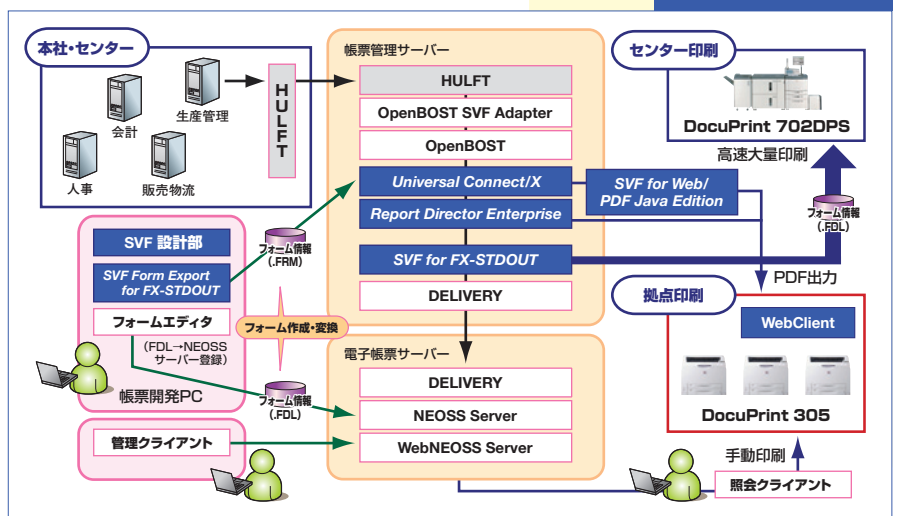
SVF Form Export for FX-STDOUT

SVF で作成したフォームオーバーレイを、富士ゼロックスフォームオーバーレイ情報に変換するツール

SVF for FX-STDOUT

RDE より生成された帳票データを、STDOUT 形式に変化するためのツール

システム構成



ウイングアーク1st株式会社

www.wingarc.com

E-mail: tsales@wingarc.com

[本社] TEL: 03-5962-7300 [大阪] TEL: 06-6225-7481 [名古屋] TEL: 052-562-5300

[福岡] TEL: 092-292-1092 [仙台] TEL: 022-217-8081 [札幌] TEL: 011-708-8123 [新潟] TEL: 025-241-3108



本リーフレットに掲載した会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。掲載内容は 2006 年 11 月現在のものです。

CA0104C1702